

国際森林年記念事業のあらまし

2012年3月



国際森林年国内委員会事務局

●国際森林年に関する世界の取組



2010年12月18日 ブリッジングセレモニー 石川県



2011年2月2日 国際森林年キックオフ

●第62回全国植樹祭（和歌山県田辺市/2011年5月22日）



●第35回全国育樹祭（奈良市佐紀町/2011年11月20日）



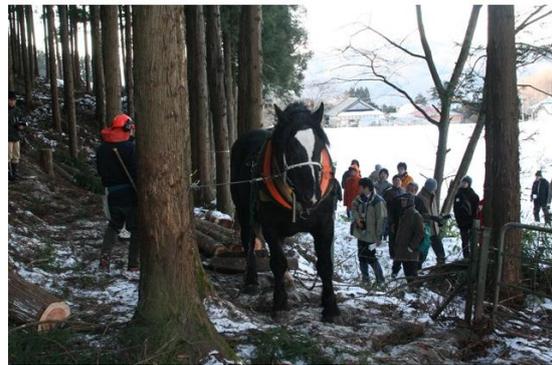
●国際森林年国内委員会



2011年8月3日 第3回国内委員会 長野県信濃町アファンの森エクスカーション



2011年8月3日 第3回国内委員会



2012年1月10日
第5回国内委員会 岩手県遠野市馬搬見学



2012年1月11日 第5回国内委員会 住田町エクスカーション

●新聞社と連携した記念会議



読売新聞記念会議



日経新聞記念会議

●国際森林年の集いとリレー植樹



宮崎県宮崎市

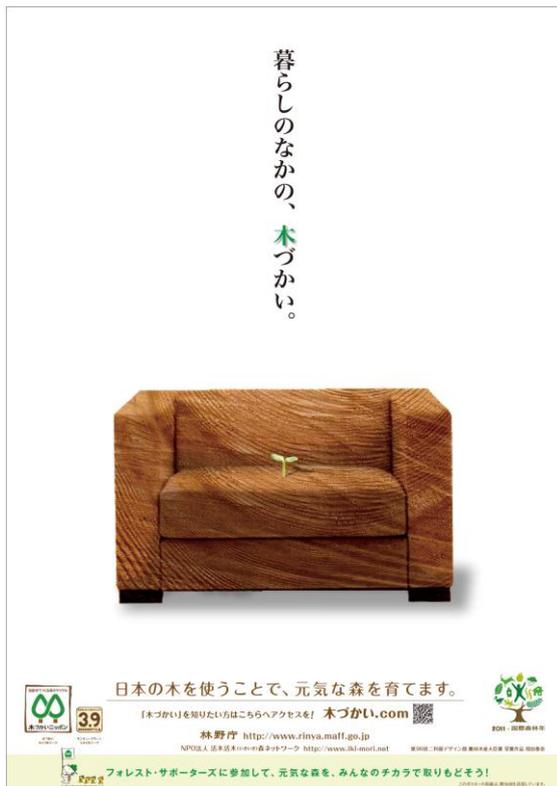


宮城県仙台市でのリレー植樹



北海道紋別市

●木づかい運動



●美しい森林づくり推進国民運動



●葉っぱのフレディ

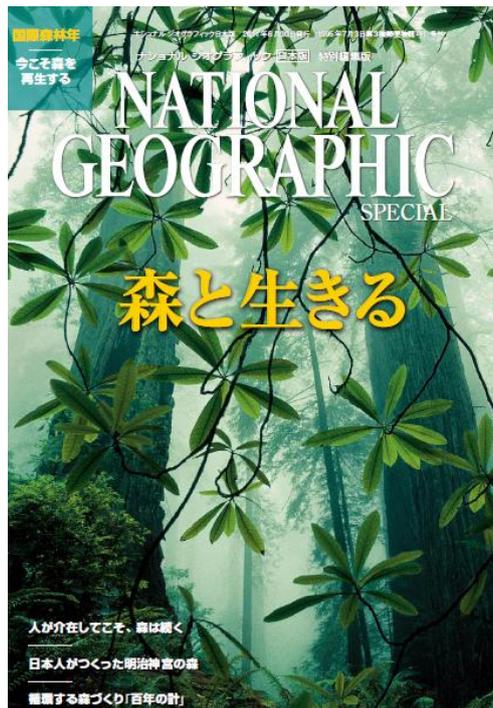


2011年3月8日 国際森林年子ども大使任命式



2012年1月17日 報告会

●雑誌企画



ナショナル・ジオグラフィック



森林ウォーカー

序

2006年12月に開催された国連総会において、2011年を国際森林年とすることが決議されました。日本政府は、この決議を受け、平成23年度における所要の予算措置を講じるとともに、取組を推進する中核的な組織として、国際森林年国内委員会を設置しました。

国内委員会は、2010年12月に開催された第1回委員会において、人々が森林への理解を深める入り口となること、及び、暮らしの中に森林や木材が取り入れられることへの期待を込めて、「森を歩く」～未来に向かって日本の森を活かそう～森林・林業再生元年～というテーマを決定しました。

2011国際森林年は、2月に国連本部で開催された第9回国連森林フォーラム（UNFF）会合における記念式典を皮切りに、世界各国で様々な取組が行われました。

日本においても、国際森林年記念会議や地方公共団体等と連携した全国的記念行事、既存の国民運動と連携した記念行事等を始めとする多彩な取組が展開されました。

このような国際森林年の取組を進める中、3月11日に発生した東日本大震災は、日本全体にとって歴史的にも未曾有の大災害であり、物理的な面はもちろんのこと、感覚的な面においても平衡感覚を失わせるほどの重大な影響を与えた出来事です。

しかし、一方で、原子力発電所の事故による被災は、国際森林年の国際テーマである「Forests for People（人々のための森林）」にも通じる「森林に対して人がどのように向き合うのか」という根源的な問題について、多くの人々が気づき、見直すきっかけとなった側面があると思います。

私は、21世紀の日本社会のあり方を考えると、高度な工業化社会から森林や自然との関わり方の見直しをベースとした新たな社会へと変化していかざるを得ず、今その分岐点にさしかかっていると感じています。

2011年10月、国内委員会は、国際森林年の取組状況を踏まえ、「森のチカラで日本を元気に」というメッセージとともに、「人づくり」、「森づくり」、「木づかい」及び「震災復興」に向けた行動提案を国民に呼びかけました。

1985年の国際森林年に発行された記念誌の序文には、「国際森林年の意義が、今年だけの問題ではなく、永い将来に向かって確実に引き継がれていくことを祈念してやまない」と記されています。

私は、このような先人たちの思いを受け継ぎつつ、もう一度「森を歩く」という2011国際森林年の国内テーマに立ち返り、これを永続的なテーマとして、これからも皆さんに呼びかけ続けていきたいと思っています。

本誌は、2011国際森林年の取組の概要をとりまとめたものであり、その内容を振り返るだけでなく、今後の取組を進める上での参考として幅広く活用していただければ幸いです。

終わりに、本誌に掲載された方々だけでなく、国際森林年の趣旨に則して取り組まれた数多くの皆様方に心から感謝申し上げます、序といたします。

平成24年2月

2011国際森林年国内委員会
座長 佐々木毅